

# 園芸タイムリー情報

## 《6月上・中旬版》

令和2年6月1日発行 第2号

上川農業改良普及センター

Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通

天気は数日周期で変わり、平均気温は高いか平年並みの予報です。気象・生育に合わせた温度管理・かん水管理を行いましょ。


- ①ハウスの管理は高温対策と低温対策の両方に留意します。湿度の高まりは病害発生要因となるので、モヤ抜き換気を行いましょ。
- ②アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い、適期防除に努めましょ。
- ③ほ場は、透排水性の改善に努め、高畝栽培等の湿害対策を励行しましょ。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。


作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
発生状況	少発生	
発生時期	5月上旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生は目立っていないが今後の発生に注意する。</li> <li>・両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。</li> <li>・葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスの換気に努め、下葉等の摘葉による通気性の確保を行う。</li> <li>・予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬を中心とした予防的防除を定期的に行う。</li> <li>・発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。</li> </ul>		
<発生確認後の防除の一例> (トマト・中玉・ミニトマト共通) ●トリフミン水和剤 葉かび病：3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 すすかび病：3,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	コナガ成虫	
発生状況	コナガ	
発生時期	6月上旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。</li> <li>・5月1日に成虫の初発が確認され、今後は幼虫の発生に注意が必要である。</li> <li>・昨年は6月上旬より幼虫の発生が見られている。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。</li> <li>・トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する(写真右参照)。</li> <li>・品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。</li> <li>・シアミド系(プレバソフフロアブル5等)への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。</li> </ul>		


作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
発生状況	少発生	
発生時期	4月下旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・莖葉の病斑、腐敗果、ゴーストスポットが見られている。</li> <li>・莖葉の繁茂に伴う通気性の悪化や、曇天降雨により発生が増加する恐れがある。</li> <li>・枯れた花弁、がく枯れ部、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分などから侵入し発生しやすい。</li> <li>・芽かきや摘葉後の枯死部分から侵入し、株が枯死する場合もある。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・換気を心がけ、必要に応じて摘葉を行い通気性を確保する。</li> <li>・芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。</li> </ul>		
<防除の一例> 予防散布で効果の期待できる剤 ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト(直径3cm以下を除く)：4回以内、ミニトマト：2回以内 ※中玉トマトはサイズにより分類されます。  発生が見られている場合に使用する剤 ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	キスジノミハムシ	
発生状況	こまつな葉部食害	
発生時期	6月上旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。</li> <li>・気温の上昇に伴い、6月から発生に注意が必要である。</li> <li>・7月～8月に発生がピークとなる傾向がある。</li> </ul>		
●成虫期間：1～4ヵ月 ●卵期間：5～7日 ●幼虫期間：10～20日 ●蛹期間：3～15日		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。</li> <li>・土壌施肥剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。</li> <li>・ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。</li> </ul>		
<防除の一例> ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回(こまつな) ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回(チンゲンサイ) ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回(チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな)		

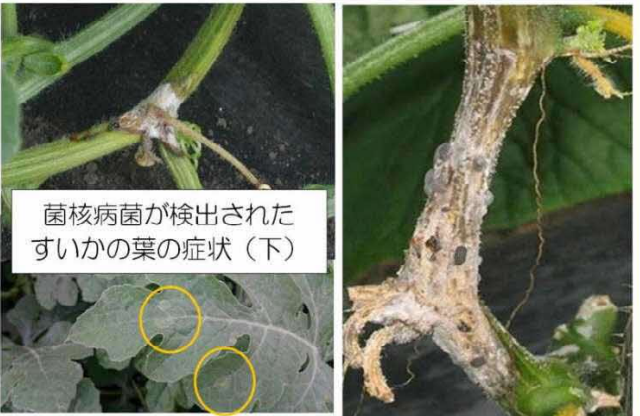


作物名	すいか
病虫害 生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月下旬～	ハダニ類による被害葉

発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉にかすり状の小さな白斑や退色症状が見られる（初発は下葉より）。</li> <li>現在、促成栽培のハウスで初発が見られている。</li> <li>今後、4月定植のほ場も発生してくると予想される。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期の防除に努め、葉裏に十分かかるよう散布する。</li> <li>防除は早朝に実施し、午前中には乾くようにする。夕方の防除は菌核病の発生助長や葉害発生の可能性があるため避ける。</li> </ul>	
<防除の一例> ●カネマイトフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回 ●コロマイト乳剤 1,000倍 収穫7日前まで 2回以内	

作物名	いちご
病虫害 生理障害名	
ハダニ類	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
6月上旬～	

発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期には下葉の裏に発生することが多く、発生に気づくのが遅れがちになる。</li> <li>寄生数が増加し被害が激しくなると、葉の縁が暗赤色から褐色に変わる。</li> <li>発生が激しくなると、被害は株を中心に広がり収量に大きく影響する。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>春期の下葉かきは発生源を減らすのに有効である。</li> <li>各種管理作業中にハダニ類の寄生および被害の発見につとめ、早期防除に努める。</li> <li>薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤は連用しない。</li> </ul>	
<防除の一例> ●ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ニッソラン水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 2回以内	

作物名	すいか・メロン
病虫害 生理障害名	
菌核病	
発生状況	
少発生	
発生時期	
5月下旬～	菌核病菌が検出されたすいかの葉の症状（下）

発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。</li> <li>20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。</li> <li>すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>着果期前より予防防除を実施する。</li> <li>被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。</li> </ul>	
<防除の一例> ●スミレックス水和剤 すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。 ●カンタスドライフロアブル すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内	

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
 なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
 気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
 ※掲載されている農薬情報は、令和2年5月27日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□  
 【農作業事故編】  
 ー農作業事故の防止は日頃の安全確認からー

- ・作物の管理だけでなく、作業者の体調管理にも気を配りましょう。
- ・作業時は定期的な休憩と水分補給を忘れずに行いましょう。
- ・作業はできるだけ2人以上で行うか、定期的に声かけや異常がないかを確認しあいましょう。
- ・離れたほ場で作業をする場合は、あらかじめ、作業ほ場を家族等に知らせましょう。
- ・ハウス内は日照により内部の温度が大きく変化します。体調が優れない時や高温時はハウス内作業を避けましょう。